

報告 3

必修英語授業を通じて行う地域との連携 —「しばたサマーフェスティバル2019」で英語を使う—

大 岩 彩 子

はじめに

本報告では、授業のプロジェクトとしてしばたサマーフェスティバル 2019 に参加した活動内容を報告する。地域で英語を使うという目的で導入した Project Based Learning (課題解決型教育) を取り入れ、Communication Skills B1 クラス 2 を履修している学生が、祭りの出店に関する英語翻訳と交流事業の為来日していたアメリカ人家族を案内する英語ボランティアという形でイベントに参加した。地域で英語を使うという経験をした学生の学び、気づきを考察し、今後の敬和学園大学英語コミュニケーション学科の課題を考える。

1 参加授業について

2019 年度担当の Communication Skills B1 クラス 2 とは、2 年次対象の「英語聴く・話す」の科目である。自信を持って話すことに加えソフトスキルの練習を目標とし、テストなどは行わずトピックごとのプレゼンテーションの準備をパフォーマンス評価した。また将来仕事で使える英語、コミュニティで役に立つ言語スキルの習得を学習目的とした。

履修者は 24 名、内 4 名は国際文化学科の学生なので選択科目として履修している。24 名中 3 名は「人前で話す」「他人とコミュニケーションをとる」ことを困難に感じる特性があり多様性に富んだクラス・ダイナミクスと言える。

2 プロジェクトについて

授業は毎ユニット短いプレゼンテーションを行う Project Based Learning (PBL・課題解決型学習の意) で授業を構成していたが、最終的なクラスプロジェクトはしばたサマーフェスティバルでアメリカ人家族のガイドをすることであると伝えた。オレンジ会会員で新発田ビルサービス株式会社社長の小池裕氏が所属する新発田市バスケットボール協会の事業で 2019 年 7 月 26 日から 7 月 31 日までの期間、「日米中学生バスケットボール親善大会」が新発田市で行われる予定であった。日系 4 世にあたる中学生、3 世にあたる親世代、2 世に当たる祖父祖母も含めた 24 家族とコーチの約 100 名の日系アメリカ人がサマーフェスティバルに来場するというこで、Communication Skills B1 クラス 2 の最終プロジェクトは、サマーフェスティバルで日系アメリカ人ご家族を案内、通訳する英語ボラ

ンティアとして参加することとした。

学期最初のプレゼンテーションでは手が震えてしまっていた学生もいたが学期末には約3分のプレゼンテーションを組み立てクラス全体の前で発表することに慣れるまでになった。サマーフェスティバル英語ボランティアプロジェクトはまずホストするご家族の前で大学紹介と自己紹介ができるようにしなければいけないという話し合いから、クラス全体で大学紹介文を考え暗記するまで練習した（付録1参照）。大学紹介はキリスト教主義でありリベラルアーツを学ぶ大学であること、地域でのアクティブラーニングとボランティアを重視する教育でこのプロジェクトもその一環であるということを含めた。自己紹介も大学紹介同様構成を統一し、自身の情報を付け足し暗記した（付録1参照）。自己紹介と大学紹介は授業時間内に担当教員の前で発表し、パフォーマンス評価の対象とした。

次の活動は所属ゼミなどで出店するグループ、日系アメリカ人のご家族をガイドするグループ、敬和オリジナル手拭いの説明を考えるグループの3つに分かれて行った。ブースに立つ学生はそれぞれの出店内容を英語訳し、英語話者のお客様がいらした際に商品説明できるよう練習した。またメニューを英語訳する作業も行った。店に立たない学生はその他の出店エリアを手分けし、出店内容を英訳する作業を行った。販売する商品名を訳してもおそらく伝わらない商品も多く、説明を加えた。祭りエリアの中には神輿の展示などもあり「神輿」「天狗」など日本固有の文化の説明が必要なものもあった。またサマーフェスティバルでは産官学民プロジェクトの一環で敬和オリジナル手拭「紺パクト福ろう」を販売するというので、「手拭いとはなにか」「手拭いの使い方」の英語POPを作成した（付録2参照）。ガイドをするメンバーはそのPOPを使い販促に貢献できるよう練習した。サマーフェスティバル当日はそれぞれ活動をする為、この準備段階での貢献度や協力を評価した。

コミュニケーションを途切れさせない為には、スマートフォンを使用し確認する事、単語や説明を見せる事も不可欠であると考え、訳した単語、説明に役立つようなフレーズ、英語の説明は全て Quizlet¹⁾ というアプリにリストを作った。サマーフェスティバルのエリア別に必要な単語を納め、ガイドをしながらスマートフォンで確認できるように設定した。自己紹介に必要な単語、手拭いの説明に必要なフレーズもアプリ内にセットを作った（付録3参照）。どうしても伝わらない場合は音声機能に頼っても良いとし、他にも使えるようなアプリを提示した。

3 当日の流れ

日系アメリカ人のご家族とコーチらの団体はカルチャーセンターでの交流イベント（学生が通訳ボランティアとして参加）終了後、17時頃新発田市役所へ到着した。控え室が

あり、全体としてご家族とコーチにご挨拶後、学生はご家族のマッチングを行いその場で自己紹介と大学紹介をした。終わった学生からご家族をフェスティバルに案内した。20時を目処に市役所に集合し、大岩に報告後解散とした。いつでも連絡ができるようになっていたがヘルプ要請はなく、歩いて見回ったがコミュニケーションの問題もなさそうであった。いくつかのグループはご家族とはぐれてしまったり、中学生の子どもたちが別行動をしている様子もあったが大きな問題にはならなかった。

4 学生の振り返りと考察

振り返りアンケートでは準備段階で感じた事とプロジェクト終了後の感想を書かせた。20名分回収の内プロジェクト準備中から終了後まで肯定的な気持ちを維持した学生は3名、始終否定的な気持ちで取り組んだ学生は3名いた。肯定的な気持ちで準備していたがプロジェクト終了後の感想が否定的だった者は2名いたが、不安を抱えて準備に取り掛かっていたがプロジェクト終了後肯定的な気持ちに変わったと振り返った学生は12名いた。

準備段階の不安は nervous, stressful, anxious という言葉で表現されており、多くの学生が抱えた否定的感情は課題の量や質の為ではなくプロジェクトに対する責任によるものと言える。否定的な感情が肯定的に変化した12名の学生のコメントは、「良い機会だった」「自分のできないことが分かって良かった」と機会に関するもの、「もっと勉強したいと思った」「将来やりたい事に役立つと思った」のように経験を未来につなげて感想を述べたもの、「思ったより話せた」「達成感を得た」と自己肯定感につながる感想が主であった。プロジェクト終了後の否定的な意見は「日本の文化について説明ができなかった」「練習した事も話せず（自分に）がっかりしたがまた機会があったら頑張りたい」というような建設的な意見と、暑さや疲れなど外的要因や体調に関するものであった。

自由記述では、「授業時間では準備が足りず休み時間に友達と練習をしなければならなかったがそれが楽しかった」「今後も使える英語表現だからしっかり覚えたい」という共通意見があった。20名中11人がガイドの際 Quizlet アプリを使ったと報告しており、学生が作ったリストも役立ったといえる。ホストした4世ご家族のみなさまからも喜んでいただき、ジョークで「この学生にはAプラスをつけてください」というのを聞いていたり、協会経由でお礼の手紙を受け取るなど、苦労もあったが達成感があったという印象を受けた。

おわりに

学生の振り返りからも「地域で英語を使う」英語ボランティアという最終プロジェクトが学びに良いプレッシャーを与え「自分の英語が通じた」という達成感を与えたことがわかる。日本文化や新発田の文化を説明するにあたり再認識する機会となり、何より多くの

人に喜んでもらえたということが良い経験となった。しかし日米中学生バスケットボール親善は毎年、全国各地の持ち回りで行っており、今回初めて大学がしばたサマーフェスティバルに参加する年にたまたま新発田で行うということであったため、来年度以降英語のクラスがどのように参加できるかはまた一から考える必要がある。また Communication Skills Bは毎年4クラス開講し、大岩とネイティブの契約講師が担当クラスを変え教える為、1クラスのみプロジェクトを継続させることは難しい。なんらかの形で2年次英語履修者が「地域で英語を使う」活動を続けて行えるよう環境を整え、学科全体で取り組む必要があると考える。

註

- 1) Quizlet とは、オンラインやアプリで単語帳が作れる無料学習ツールである。授業で使用していたため全員がアプリをダウンロードしていて使い方にも慣れていた。

付録1 自己紹介文

Summer Festival Self-introduction

Greeting	Hi/ Hello. Nice to meet you. I'm _____. Please call me _____. I'll be your guide today
My Studies	I'm a freshman/ sophomore/ junior/ senior at Keiwa College. I major in English communication/ intercultural studies/ community and social welfare. I study _____/ My study focuses on _____.
Keiwa College	Our college is a small, private, Christian university in Shibata city. The college offers liberal arts education, and we have three departments: English communication, intercultural studies, and community and social welfare. We have a friendly campus and small classes. We also do a lot of volunteer work and active learning. This English guide is a part of my core curriculum English class.
Other information about yourself	

付録2 手拭い説明文

紺ぱくとと福ろうな 福ろうはいかが？

歌和学園大学オリジナル手拭

紺ぱくとと福ろう

一枚/one piece ¥1,000

ドリンクセット w/ drink ¥1,100

Kiwa College presents the original tenugui, designed by students

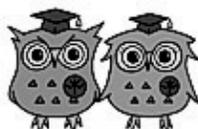
The design motif is the back of the college school mascot,

leaving the footprints of the college symbol.

Collaborated with Fujoka dye house

(established in 1748), classical method of

dyeing is used with Japanese indigo



What is Tenugui?

Tenugui is a Japanese style hand towel. The history of tenugui goes back to Heian period, which is about 1000 years ago.

In Heian period, only the people with the high status were allowed to use tenugui. Tenugui has slowly spread over to ordinary people, and by the 14



Tenugui is still very popular. People have been using tenugui not only as towels and handkerchief but also in various different ways.

How to Use Tenugui



bag



drink holder



book cover



home decor



place mat



Hair accessory

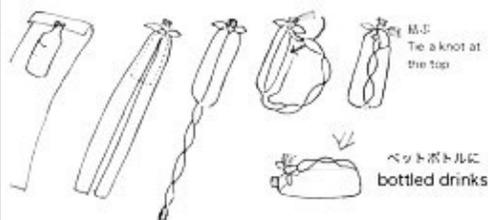


scarf



bento

使いいろいろ



結ぶ
Tie a knot at the top

ペットボトルに
bottled drinks

中心に合わせて折る
Fold both sides to the center

ティッシュボックスに
tissue box



ティッシュボックスを包む
Wrap tissue box

弁当に
bento box

適当な大きさに折る
Fold to fit the bento



結ぶ
Tie the sides

歌和学園大学オリジナル手拭

紺ぱくとと福ろう

付録3 Quizlet アプリケーション

Self-Introduction

STUDY
 Flashcards
 Learn
 Write
 Spell
 Test

PLAY
 Match
 Gravity
 Live

大学2年生

Created by KeiwaSS TEACHER
 added to Summer Festival Guide

Terms in this set (7)

		Original
大学2年生	sophomore	★ 4/5
大学3年生	junior	★ 4/5
英語コミュニケーション学科	English communication department	★ 4/5
国際文化学科	Intercultural studies department	★ 4/5
共生社会学科	community and social welfare department	★ 4/5
学部	department	★ 4/5
必修科目	core curriculum	★ 4/5

Area 2

STUDY
 Learn
 Flashcards
 Write
 Spell
 Test

PLAY
 Match
 Gravity
 Live

Created by KeiwaSS TEACHER
 added to Summer Festival Guide

Terms in this set (20)

神輿

Mikoshi is a portable Shinto shrine. Old Japanese people believed that it serves as the vehicle to transport a deity (god) during a festival. Typical shapes are rectangles or hexagons with a lot of decorations.

天狗

Tengu is a legendary creature. It originated from a dog like Chinese demon. Typically Tengu has a red face, but Shobatas Tengu has a white face.

Area 3

STUDY
 Learn
 Flashcards
 Write
 Spell
 Test

PLAY
 Match
 Gravity
 Live

Created by KeiwaSS TEACHER
 added to Summer Festival Guide

Terms in this set (9)

		Original
スパゲッティ	fried spaghetti noodle (It's a festival food)	★ 4/5
ジャークチキン	jenk chicken (It's a Jamaican food)	★ 4/5
焼きそば	fried noodles	★ 4/5
かきおどり	shaved ice	★ 4/5
ソフトクリーム	soft serve ice cream	★ 4/5
しいたけ	shitake mushroom	★ 4/5
サッカー広場	soccer area	★ 4/5
唐揚げ	Japanese style fried chicken	★ 4/5